

デザインの復権

The Reinstatement of Design

第10回「建築と時間」

Chapter 10: Architecture and Time

第10回「建築と時間」

近代建築はできたときがいちばんキレイで、だんだんヨゴれていく、とよく言われる。つまりギリシャ、ローマの古代建築や、法隆寺のように年を経るにつれて風格が出てくるようなものが極めて少ないということだ。近代建築はガラスやアルミパネルといった決してヨゴれず、年をとらない材料を好み、蔦が絡まることを拒絶する。蔦が絡まっても似合う古建築や古典主義建築が多いなかで、そうした状況が絵になる近代建築が極めて少ないのはなぜなのか。時間が経つと、必然的に現れる外界からの異物を極端に忌み嫌うエクスクルーシヴな遺伝子がある。これは単に石や木といった素材の使い方だけの問題ではなく、そもそもの建築のあり方からくるものなのである。

近代建築の生い立ち

近代建築の生い立ち

近代建築の生い立ちには諸説があって、その始まりを19世紀のフランスの新古典主義の後期に求める歴史家もいれば、米国のシカゴ派の高層ビル群の登場を持ち出す人もいたり、20世紀のバウハウスをその起点とする考え方もあって、さまざまである。

しかし、建築の造形が大きな変化を遂げるのは、ロシア革命から登場したロシア構成主義と、オランダのデ・ステイル、およびドイツのバウハウスのあたりからだろう。近代建築は東からやって来て、西漸して、やがて米国、日本に伝わってきた。ロシア構成主義からバウハウスの時代にかけては、建築の社会主義革命の色彩が強く、バウハウスから米国に渡ると、合理主義精神とテクノロジーの発達が強調されるようになった。この渡米時の際に起きた、脱イデオロギーのねじれ現象は近代建築の特徴で、「壁面からの装飾の排除」を例にとっても、ロシア、ヨーロッパのコンテキストでは貴族主義の否定ということになるのだが、米国に渡ってからは、合理的にそうすべきであるとか、マスプロダクションに乗りやすいとか、スタイルとしてそういうほうが好ましいということになるのである。

ジークフリード・ギーディオンの著書『時間・空間・建築』はハーバード学派の近代建築史の教科書ともなったものだが、近代建築を生んだのは、パクストンの水晶宮やマイヤールの橋のデザインということになっていて、合理主義精神とテクノロジーの発達がその出発点として位置付けられている。

しかしそこにマルキストが多かったために、バウハウスがナチスによって閉校に追い込まれたことやイデオロギーと建築に関する記述がすべて削除されていることが興味深い。米国に渡ってから近代建築はイデオロギーからスタイルに変わったのである。

スイスの山奥から出てきた若き日のル・コルビュジェが地中海を旅して、ギリシャの白や集落のフラットルーフに影響を受けて、フラットルーフ、ピロティに始まる近代建築の五原則を打ち立てたことも、近代建築のスタイルの確立に強い影響を及ぼした。

しかし、こうしたさまざまな源流を持つムーヴメントに共通してあったのは、それ以前の世界の建築に支配的だったボザール中心の新古典主義へのアンチテーゼだった。フラットルーフを好み、壁面の装飾やシンメトリーを嫌ったのは、ボザールの建築様式に対する反発から出て来たものと理解することができる。あわせて近代建築運動が、ボザールの持っている歴史に対する眼をも否定したことが、今日の近代建築の「時間を否定する遺伝子」の1つの原因となったのではないか。

インダストリアルデザインの影響

インダストリアルデザインの影響

もう1つの遺伝子は、この時期の近代建築が、自動車や飛行機や船といったインダストリアルデザインの影響を強く受けたことである。ル・コルビュジェの「住宅は住むための機械である」というフレーズはこの時代精神をよく反映している。この時期には、最先端のテクノロジーが、こうした近代的な乗り物を多く生み出した時期であって、機械のスケールと建築のスケールが偶然にも一致した時代だったと言える。建築のスケールは、古代バビロニアの頃からそれほど変わっておらず、変わってきたのは先端的テクノロジーのスケールのほうである。

現代では、建築は相変わらず天井高3mくらいのところにいるのに対して、ITテクノロジーやバイオテクノロジーのスケールは、桂離宮の建築を全く変えずに、畳の下に埋め込むことのできるものとなった。先端的テクノロジーはもはや建築の形を決定するものではなくなったのだ。

ところでジャンボジェット機のようなインダストリアルデザインに蔦が絡まっている姿は、その機械がスクラップになるとき、すなわちそれは機械の死を意味することなのである。インダストリアルデザインから

強い影響を受けた近代建築が蔦を拒絶するもう1つの理由がそこにある。さらに付け加えるならば、ある種の商業建築もまた、こうした蔦のようなものを嫌うのである。チェーン展開をしている店舗、例えばマクドナルドやスターバックスなどは常に開店時のようにいつもキレイでなくてはならないように運命づけられている。こうした商業建築の前にペンペン草が生えるようなことがあれば、やはり、それは「停滞」もしくは「死」を意味するのである。商業と工業の活力によって支えられている現代都市においてはこうした傾向が顕著で、建築の方向性もまたこうしたファクターによって左右されているのである。

時間という根源的な問題を再考することは、近代建築そのものの批評と現代都市の様相を客観的に考えることなしにはあり得ない21世紀の重要なテーマとであるように思う。現代の建築が時間との関わり方を変えるときとき、近代建築には新たな方向性が見えてくるはずだ。しかしその地平は表面の素材をガラスから木に置き換えただけではやってこないだろう。

現代の建築と時間

It is often said that modern architecture is beautiful when completed but becomes grubby over time. In other words, there are very few structures that gain a sense of presence with the passage of time like the ancient architecture of Greece and Rome. Modern architecture prefers materials such as glass and aluminum panels that never stain or weather, and rejects the tangled embrace of ivy. Why is it that very few modern buildings are picturesque when covered with ivy? In order to find an answer to this question it is necessary to go back and examine the birth and history of the culture of modern architecture that has penetrated our daily lives.

現代の建築と時間

While there are several theories regarding the birth of modern architecture, drastic visual changes in the world of architecture came to pass with Russian Constructivism (which arose during the Russian Revolution), the Dutch De Stijl, and German Bauhaus. Modern architecture came from the east, was revised in the west, and then spread to the U.S. and Japan. From Russian Constructivism to Bauhaus, architecture was influenced storongly by socialist revolution. Moving from Bauhaus to the U.S., architecture began to emphasize the spirit of rationalism and technological development. After reaching the U.S., architecture became concerned with how to make things rationally and with what could easily be applied to mass-production, and believed that this was more agreeable regarding style.

The establishment of the five principles of modern architecture, including the flat roof and piloti, by Le Corbusier when he was still young and influenced by Grecian white and colonial flat roofs, also had strong influence on defining the style of modern architecture.

In common to all these movements with their diverse origins was the antithesis of neaclassicism, mainly Beaux-Arts, which had been the dominant style in the world of architecture until that time. The preference for flat roofs and the avoidance of wall ornamentation and symmetry can be seen as a backlash against the architectural style of the Beaux-Arts. At the same time, the fact modern architecture even rejected the Beaux-Art' view of history was one of the factors that produced the "gene that denies time" that is part of modern architecture.

現代の建築と時間

Another of modern architecture's genes was acquired when it was under the strong influence of industrial design, such as automobiles, airplanes and ships. At that time the most advanced technology gave birth to many modern vehicles and the scale of machines just happened to match the scale of architecture. The scale of architecture hasn't changed from ancient Babylonian times, but the scale of state-of-the-art technology has. IT technology and biotechnology have enabled the architecture of Katusra's Detached Palace to be buried, without alteration, under the tatami mat. The most advanced technology no longer determines the form of architecture.

The only time ivy covers the products of industrial design, such as a Jumbo jet, is when machine has become scrap; ivy covers machines only in death. Accordingly, under the influence of industrial design, modern architecture also rejects ivy. Other types of commercial architecture too abhor things like ivy. The tendency is evident in modern cities sustained by the energy of commercialism and industry, and the direction of architecture is also swayed by these factors.

Reexamining the essential issues of time is an important theme for the 21st century, for which prediction is impossible without objectively studying the evaluations of modern architecture and the state of modern cities. When today's architecture changes the way it relates to time, a new direction will come into view for modern architecture. The horizon, however, will not appear merely by changing the surface material from glass to wood.